

WMO企業理念

人と野生動物の未来のために



令和3年6月

株式会社 野生動物保護管理事務所

はじめに

WMOは、1983年に、我が国では馴染みの薄かった「野生動物保護管理」の確立を志した6名によるパイオニア企業として創業しました。

当時は、経済活動の急速な発展に伴う環境汚染問題、ゴルフ場などレジャー施設乱立による自然環境破壊が大きな社会問題となっていました。今でこそ、シカ、イノシシ、サルによる農林業被害の増大、クマの市街地出没による人身・生活被害の増加など、野生動物のオーバーアバンダンスに伴う人との軋轢が大きな社会問題となっていますが、その頃の全国のクマやシカの分布は、連続性を欠き孤立している地域も少なくありませんでした。生態系における高次消費者あるいはキーストーン種に位置づく大型哺乳類の地域的絶滅も懸念される中、その生態や生息環境に関する情報は乏しく、保全の責任が誰にあるのかも不明確というのが当時の状況でした。このことに危機感を抱き、「野生動物保護をきちんとこなす社会システムをつくること」、「我が国の行政組織に Wildlife Management の体制を定着させるために、そのサポートをする組織を作ること」を目的として初代代表の東英生氏、前代表の羽澄俊裕氏らがWMOという組織を立ち上げました。

早いもので創業から38年、会社設立から30年が経ちました。この間、野生動物の生態と地域で起きているさまざまな問題を知ることを第一と考えて活動してきました。それによって、現場を熟知した組織として一定の評価を受けるとともに、行政や社会に対して起こしてきたアクションは、Wildlife Management システム確立への貢献の意味でそれなりに実を結びつつあります。また、創業者の意思に共鳴し、組織の目標を共有できる仲間が70名を超える規模にまで拡大し、組織の機能も着実に幅を広げています。

組織の成長、そこに集う社員の多様性は目標を追い求める上で有益なことです。しかし、ともすれば第一義的な目標に曖昧さを生み出す危うさも伴います。そこで、会社設立30年の節目にあたるこの年に、WMOの基本理念、ミッションを改めて確認し合い、今後のビジョン、必要な人材、行動指針など、これからの活動の方向性と具体的な取り組みを見定めるために、この企業理念を作成することにしました。

少子高齢化による社会構造の変化、地球温暖化による自然環境の大きなうねり、グローバル化に伴うさまざまなリスクの増大、イノベーションがもたらす生活常識の変化は、人と野生動物の関わりにも大きな変化をもたらす始めています。野生動物の価値向上、生物多様性保全のため、「Wildlife Management」を社会システムとして定着させること、その実現を目指す我々の役割は、ますます重要性を増していくことでしょう。

WMOが目指す到達点への道標、羅針盤としてこの企業理念を役立てていただきたいと思います。

2021年6月

株式会社野生動物保護管理事務所

代表取締役 濱崎 伸一郎

1. 基本理念

- 豊かな自然と感動を未来に、人と野生動物の明日を思い今を創造する

2. ミッション

社会で求められる、または必要な任務

- 野生動物問題の解決を通じて生物多様性を保全する
- 野生動物と生きる持続可能な社会と、安心できる生活圏の確保を実現する
- 現場に即した野生動物保護管理システムを確立する
- 野生動物保護管理に必要な知識・技術・人材を提供する

3. ビジョン

ミッションを達成するための企業としての目標

- 現場第一主義に立ち野生動物とそれを取り巻く自然環境を理解する
- 野生動物保護管理に必要な知識を蓄積するとともに、技術を開発・研鑽し、人材を育成する
- 地域の獣害対策から国の施策立案までを全国でサポートする組織体制を構築する
- 国・地方自治体・地域等が抱える野生動物問題を速やかに解決し、信頼される業界 No. 1 のプロフェッショナル集団であり続ける
- 人口減少等の野生動物を取り巻く社会環境に対応し、より良い社会の実現に向けたサービスを提供する
- 野生動物の保護管理に関わる専門サービス業を 100 年継続する